midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

March 2016 No.414-415

３月号の１枚：雨氷による倒木、自然の猛威

触って遊べば　木と仲よくなれる

地元産天板机に子供たちは「あゝ，いい匂い」と机にしがみついている

当会では、11年前から「神奈川県水源の里づくり県北地区推進協議会」のご支援を受けて「緑のダム森林体験学校」を開催している。3年前、当会会員がこの活動をもっと内容のあるものにしようと「さがみ湖 森・モノづくり研究所」を立ち上げ、市内の他の環境団体とも協力し、小学生対象に環境教育活動の掘り下げを図っている。まず学校の校庭回りの木にはどんなものがあるか学ぶ。次いで子供たちに森林の働きを教え、学童机天板を従来のベニヤ板材から地元の広葉樹材に変えている。出来上がりの地元産天板机に子供たちは「あゝ，いい匂い」と机にしがみついている。

その後、子供たちを森に連れて行って森林散策や木々の種類、小径木の間伐体験をしてもらう。間伐では掛かり木になる事もあるが、ロープを繋いで全員で木が狙った方向に倒れるように協力する事によって、子供たちの協調性向上効果を感じている。

間伐した小径木は、3センチ厚の輪切りにする鋸引き体験をし、各自お土産にしているが子供たちは大喜びだ。勿論、木だけでなく昆虫、花、土中動物、微生物の働きも教えている。手前味噌だが、沢山の自然体感学習を身につけていると思う。

当会の定例活動日には大体、毎回70名前後の参加者が有るが中・高・大学生の若者が7割を占め、学卒者が毎年数名、林業関係に就職している。今年は、林野庁（千葉大卒）、森林組合（麻布大卒）の2名であった。毎年3月、我が家で「同窓会」を開いているが年々、参加者が増えて「その内、同窓会館でも立てるか」などの冗談も出始めている。

麻布大とは、「学術交流協定」を結んでいるが、Forest Novaの活躍に負う事、大なり。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2016.03

3月 6日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上
知足の森/若者の森づくり
いずれも弁当持参。参加費：４００円
3月20日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森・知足の森

2月7日（第一日曜日）

Forest Nova☆4年の山田です。暦上では立春を迎えましたが、春とは名だけ、相模湖はまだまだ冷えきっておりました。当日は、天気予報は良くありませんでしたが、富士山の頂上がはっきりと雪化粧をしているのが見えるくらい空は晴れ渡っておりました。

Forest Nova☆からの参加者は試験期間が重なった影響で、試験が無い4年生1人のみの参加でした。そのため小原、孫山には行かずに、与瀬の長福寺の山「知足の森」で中学生と共に活動を行いました。知足の森はあまり手を入れられていない森で、主に若いカラスザンショウやケヤキなどの広葉樹が多い森でした。

午前中は長福寺の敷地内で装備の準備を済ませた後、いま手が入れられている場所より更に先に見える針葉樹林帯を目指し、広葉樹の除伐を行いました。前日は雪が降っていたようで、森の中の空気は雪の水気と冷気で澄んでいて、陽が当たっている所では水分が蒸発しているのが見えるような不思議な空間の中で活動は行われました。

知足の森での活動に参加するのは初めてでしたので、宮村先生や、川田さん、小林さん、そして時には中学生からも指導を受けながら除伐を行いました。若い木から間伐対象になる杉の太さくらいの広葉樹も手鋸で除伐しました。

お昼ごはんを暖かい日の当たるお寺で食べた後の午後の活動は、雪の影響で倒れてしまった杉の倒木処理でした。

樹高の半分あたりから真っ二つに避けてしまった杉は、沢を跨いで橋のように掛かってしまっていた為、作業は困難を極めました。ですが、先端から徐々に切り、だるま落としの要領で手鋸を用いて無事に処理しました。

根本の部分も伐り終え、玉切りをし、嵐山から持ってきた軽トラックまで運んだ際、中学生達は「軽い、軽い」と言いながら運んでいました。それもそのはず。午前中は同じ太さの広葉樹を山から降ろしていたからです。広葉樹と針葉樹では広葉樹の方が重たいと、ここでも一つ学びになっていました。中学生や宮村先生といった、普段活動をともにしている方々とは別の活動をすることができました。

まだまだ知足の森での活動はこれからですが、もう少しで上にある針葉樹林に歩いて行けるくらいにはなりそうです。

山田　和彦（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

2月21日（第一日曜日）

県北の地の梅の花も盛りを過ぎつつある。まだまだ寒い日もあるだろうが、今日の空気のやわらかさはすっかり春のものだ。三鷹二中を中心とした地球環境部は試験前ということで若者の参加は望星高校３名とフォレストノバの６名のみ。おじさんたちを加えて計３５名。

嵐山に着いてみて驚いた。川田さんから事前に情報を得ていたものの、作業基地近くの木々が軒並み損傷を受けている。過日に降った湿り気の多い重い雪、というより雨氷のせいではないかと皆いっている。雨氷とは「０℃でも凍らない過冷却状態の雨が、地面や木に付着するとをきっかけに凍って形成される硬く透明な氷」のこと。これに強風が加わっての仕業ではないだろうか。

先月、大雪に備えて補強したお花畑のモッコウバラのアーチが無残にも倒壊。梅、桜、サルスベリの枝もひどく折れている。まずはこれを処理しなければならない。森林整備班は先月伐倒した「森の積み木」に使用するヒノキ丸太６本（２m）を軽トラに積み山梨県都留の製材所に向かうが、残ったメンバーは栗畑で折れ枝の処理をしている。ここもひどい。遠く藤沢からいらした埴原さん（通称ハニー）も初参加ながら栗の木に登っ

てベテラン並みの活躍ぶりだ。
　木工班は長谷川大工さんの指導のもと、いつものひかりつけ作業に黙々と取り組んでいる。だんだん柱と梁の姿が見えてきた。
　昼食時、病から快復しつつある井伊さんが詩吟「春を探る」を披露。「春を探しに一日中歩き回ったが、どこにも春は見当たらない。しかし、ふと家の梅の枝先を見上げると、そこにはもう蕾がふくらんでいた。真理は遠くに求めずとも我が心にあり」といった内容である。しっかりと肝に銘じよう。
　午後からはフォレストノバを取材。ノバのメンバーは間伐を行う予定であったが、思わぬアクシデントに直面した。アナグマの巣をまたぐように立っていた径２０ｃｍほどのスギが根こそぎ倒れていたのである。巣は入り口こそ狭いが、奥はかなりの広さがあったようで、そこに雨水がしみ込んで根元の土が崩れたらしい。前日の雨？それとも雨氷のせい？それにしても、狭い空間をロープも使わず、掛かり木になることもなく見事に抜倒したアナグマ。恐るべし。
　地球環境部は望星の森のトチノキの毎木調査。今年ぶんの作業はこれで終了とのこと。その後、スギ４～５本の倒木処理を行った模様だが、倒木はまだまだ山のようにあるようだ。生命の森宣言東京も同じく倒木処理。欠損木もまだ十数本残っていて、これは来月の仕事になる。
　今月の嵐山はどの班も倒木・枝折れの処理に追われた。自然は時として猛威を振るうが、一方で豊かな恵みも与えてくれる。その中で私たちは生きている。人と自然との関わりということを改めて感じさせられた一日であった。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
Forest Nova報告
新年初定例活動と緑のダムの新年会

　寒い冬の季節も徐々に過ぎ、梅のつぼみが紅や白い花を咲かしています。
　新年も明け、初めての嵐山での活動は1月17日に行われました。1月の活動という事もあり、活動の朝礼式後に石村氏が進行を務め、若柳・嵐山の神様への新年のご挨拶と今年一年の活動中の怪我の注意喚起を行いました。
　Forest Nova☆は4名が参加し、活動地のB地点での間伐作業を行いました。Forest Nova☆としても、一年ぶりの間伐の作業ということもあり、選木された木を一つひとつ見つめなおし、優先度をつけた上で間伐する木を決定しました。ですが、間伐に要する人数が4名で、その内3名が女性ということもあり、受け口をつくる作業も午前いっぱいを用いて行いました。午後からはForest Nova☆OBである治田先輩とその友人の方も活動に合流し、その後追い口をつくり、倒れる山側の斜面よりも十度ほど角度がずれて倒れてしまいましたが、無事時間内に間伐ができました。

冬季に地元の桂北小学校の授業で体験間伐を行う予定もあるので、狙った方向へきれいに倒せるように2月の活動でも一つひとつ見直しながら間伐を進めていきたいと思います。活動後に行った終礼式には、活動に参加したメンバー以外にもハクビシンが木の上に登って、会の様子を見に来ていました。

活動後には相模湖交流センターの「ともしび喫茶 青林檎」でNPO法人緑のダム北相模の新年会が催され、Forest Nova☆から3名とOBの二藤さんと淺野さんが参加しました。参加者の方々は自身の名前とともに今年の抱負を話し、新年会は和やかな雰囲気で進んでいきました。Forest Nova☆の3年生は各々の来年度の就職活動やForest Nova☆の目標を話しました。現在Forest Nova☆は主となるメンバーが少なく、このニュースレターを書いている私も今年度以前のように十分活動に参加することが来年度出来ないかもしれませんが、この長い間森の中で学んだことや学んだ自身の気持ちを活かし来年度も活動に参加していきたいと思います。

来月のニュースレターでは、今年度卒業されるForest Nova☆4年生の嵐山や小原地域で行った森林整備活動の思い出や来年度の仕事について語って頂こうと考えております。お楽しみにお待ちください。

釜谷　優太（Forest Nova）

[報告２] 環境省・協働ギャザリング2016に参加

去る２月６日（土）に環境省が主導する「協働ギャザリング２０１６-環境×協働＝どんな未来？」がベルサール西新宿で開催されました。

北海道から沖縄まで各地区から１７団体が集まり、森・里・川・海の自然保護活動を発表しました。いずれの団体とも甲乙付け難い真剣な取り組みでした。関東地区からは「一般社団法人さがみ湖森・モノづくり研究所」とオイスカが選抜されていました。さがみ湖　森・モノづくり研究所から、本会の丸茂理事に加え、渕上さん、応援で相模原市環境情報センターの斉藤奈美さんが活動発表をしました。他に、本会から川田さん、小林さんも参加してくれていました。

甲乙付け難いと言っても、環境に経済性・社会性を盛り込んだ「一般社団法人さがみ湖　森モノづくり研究所」の発表内容が一番だと感じました。表題に「協働ギャザリング２０１６-環境×協働＝どんな未来？」とありますが、「環境×社会×経済」を動いている「相模湖森　つくり研究所」は既に、キッチリ未来を見据えた活動になっていると〝手前味噌評価“します。

石村　黄仁（本会、代表理事）

「協働取組」…市民、NPO、企業、行政など様々なセクターが共通の目的を持ち、対等の立場でパートナーシップを組み、課題解決にあたることを意味します。

平成27年度、環境省は協働取組のモデル事例として全国で17事業を選定し、各地で実践が行われてまいりました。

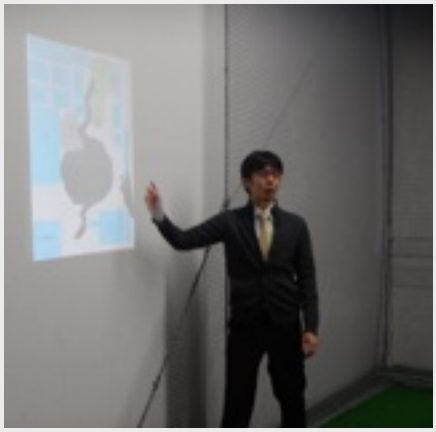
この度、全17団体が東京に一堂に会す報告会と合わせて、“環境分野における協働取組の未来”について議論する場を開催いたします。

（地球環境パートナーシッププラザのウェブサイトから引用）

[連載]
相模湖・若者の森づくりから

昨年度から公益社団法人ゴルフ緑化促進会（GGG）の緑化委員を桜井先生のご指名で担当させていただいております。その名の通り、全国のゴルファーから緑化のためと集まった基金の活用について活動する団体です。その活動の中でゴルフ＋森林（環境）をテーマにワークショップを12月に行いました。これは「みんなのトンボ池」というワークショップをベースにその中にゴルフ場（草緑色のカード）を入れたものです。トンボ池という生態系としての価値の高いと考えられている池の周辺に公園や住宅、お店や工場をカードにしたものを決めていきます。参加者それぞれに役割を決め、互いの利害を考えながらカードの置き場所を決めていきます。そのなかにゴルフ場を設定してもらうことでゴルフ場の環境における「立場」「位置づけ」を考えてもらおうというワークショップです。本来は住宅の周りには便利なお店が多いといいとか、農地や工場は遠い方がいいが、農地と工場は近いと困るなど利害が複雑化し、単純には決められずどう折り合いをつけていくか、というところがワークショップのミソになります。今回６チームに分けましたが一つとして同じ「街」はできない点も面白い点です。GGG側の意図としてはこれをきっかけにゴルフ場というのは一方的に環境に悪いものというイメージではなく、里山としての機能や自然体験ができるスポーツとして捉えてもらいたいというものがありました。ところが実際に参加した生徒の感想を見てみると、ゴルフ場が自然破壊の代表のようなイメージを持っている生徒の方が少なく、いつも自然を感じられるなかで行ってきたが、環境のなかで様々なバランスを取らないといけない、といった意見が多数でした。今の若い世代はゴルフ＝環境破壊というイメージをすでにもっておらず、ゴルフ＋環境をスムーズに受け入れられる世代ということが分かったことも大きな成果です。今後、ゴルフと森林整備を行う本会の橋渡しをしつつ、森林をテーマにした環境教育の活動を継続していきたいと思っています。

宮村　連理（本会、理事）



[報告３]
積水ハウスマッチングプログラム助成ヒヤリング実施

２月１６日、本会の事務所にて、積水ハウスマッチングプログラム助成の事務局をしている大阪ボランティア協会のスタッフ、同社CSR担当社員の方がいらっしゃり、本会からは石村、川田、宮村の３名が出席し、最終選考時で使用される資料の補足説明をさせていただきました。今回の助成は嵐山の森を中心に中高生が森林整備活動をしていくための助成と位置づけ、またその広報活動として行っている積み木イベントの助成として申請しました。結果は４月に入ってからということですが、相模湖・若者の森づくりの活動として初めての申請ですので、結果が楽しみです。

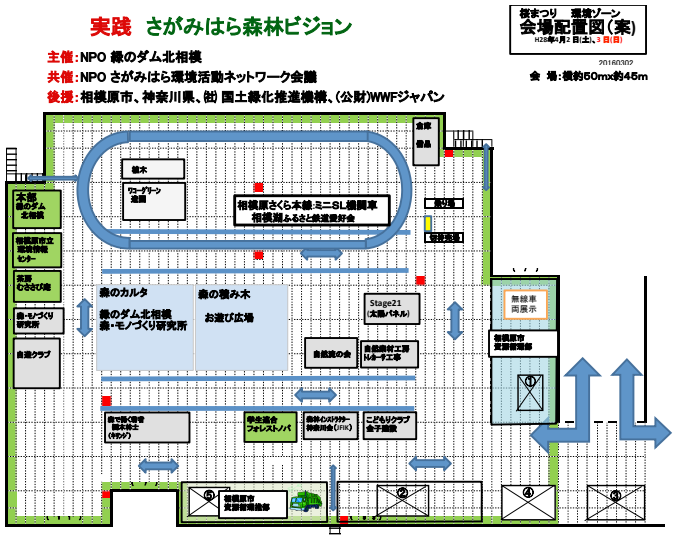
また、今回いらした担当者の方が2001年のまだ本会がNPO法人化する前に相模湖での森林整備活動に参加されたことがあるということで、当時の地域通貨のやり取りなども見せてもらい、昔話にも花が咲き、予定の１時間があっという間に終了しました。

宮村　連理（本会、理事）

【事務局から】

今年も４月２日土曜日、３日日曜日の第41回相模原市民桜まつりの環境ゾーンを主催いたします。場所は例年通り、市役所横の駐車場２階になります。相模原市関係部署に加え、市内環境団体の様々なブースが出展します。ミニSLも運行します。本会も森の積み木、カルタなど小さなお子様も楽しめるものを出展します。ぜひ当日、ご来場ください。

相模原市民桜まつり
http://e-sagamihara.com/event/april/0233_534d05e2329cd/



[報告・地域交流]
緑のダム有志による農作業が始まりました

今年より本会有志数名により、小原にて農作業を始めることになりました。場所は地元の小林元校長先生から借り受けることができました。南側の斜面で中央高速道路、JR中央線、甲州街道の間にあるため、この周辺では珍しくサルやイノシシによる被害が出づらいということです。すでに収穫が終わっているので、現在は耕し直し、土壌の中和化のための石灰を準備しているところです。毎月第２日曜日を定例活動日とし、この日を軸に時間の都合がつくメンバーが適宜、現地に行って作業を行うという形をとっています。

今後も小林さんのご指導のもと、様々な野菜に挑戦し、その様子を紹介させていただこうと思っております。また参加も自由ですので、興味、関心のある方はとりまとめ役をしております本会の川田、石井までご連絡ください。

※本会有志による活動のため、本会オフィシャル活動ではないことをご承知置きの上ご参加ください。また活動に関わるボランティア保険についても各自加入するようお願いいたします。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１８年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
Facebook：http://www.facebook.com/658588827578641
E-mail： info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版、２２世紀やま・もり再生ネット